

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十月度 入選句（投稿総数二千五百六十六句・一般投句数六百十七句）

特選

農を継ぐ子の縁決まる菊日和 大垣市 中山 あや子

農家の跡を継ぐ子が少ないとよく聞かされてゐます。その農業と家の相続をする、子供さんの縁談が決まり、ご両親を始め、親族の方々のお喜びは格別だと思ひます。その喜びをよまれた良い句で、菊日和の季語が生き生きとして居ります。

子らよりも親が楽しむ連休日 京都府京都市 坂本 正憲

今年は土曜日を含め五連休が五月と九月の二回、三連休が四回と連休の多い年です。新幹線も高速道路も始めは下り、終り近くは上りが、満員渋滞が続きます。子供を連れ祖父母の待つ故郷へ帰る。親にしてみれば、見聞する総べてが懐しく、子供以上に楽しんで居られる様子をよくよまれています。中句の親が楽しむがよいです。

特養の語らぬ姉や秋さびし 大垣市 大塚 たか子

特養（特別養護老人ホーム）は公的な施設で、常に介護が必要な状態で自宅での介護が困難で入居されてる施設です。元気な頃は何かとご指導頂き、可愛いがつて下さった、お姉さんが、お話しも出来ない可哀想な状態を秋さびしでよくあらはされています。話は出来なくても来て頂ける喜びの有る方も多いと聞きます。お大事にして上げて下さい。

秀逸

吊し柿甘きかほりを風にのせ 大垣市 宮脇 和子

タクト振る少女爽やか鼓笛隊 大垣市 町野 眞佐子

里山を赤一色に秋夕焼 安八郡神戸町 安田 廣子

鯛焼を割って五臓の餡旨し 愛知県額田郡 平松 京師

手土産はむすびの地にて水饅頭 愛知県名古屋市 小松 とみゑ

稲の穂を噛んで明後日刈ると言ふ 安八郡神戸町 高橋 泰

天高し案内人の美濃言葉 大垣市 澤井 国造

秋祭り戦陣の如幟り立て 大垣市 河合 秋信

菊人形秋になったとつげている 大垣市 金森 廣子

全身にひびきて終の大花火 大垣市 佐竹 幸子

入選

芭蕉庵めぐりめぐりて初一句
一灯の点る書院や秋深し
鯉跳る水音確と秋の川
村守る輪中の堤曼珠沙華
白桔梗どこか律儀な妻に似て
運動会白線新た午後の部へ
黙つとれん安保法案デモる秋
バツク転決めて喝采笑みさやか
ノーベル賞つづく日本よ菊薫る
震災忌当たらぬくじをまたも買う

福井県敦賀市	湯谷	千里
大垣市	今津	正元
大垣市	伊藤	明美
不破郡垂井町	富田	実郎
不破郡垂井町	内海	白涛
大垣市	宮脇	和子
大垣市	木村	一句
不破郡垂井町	西垣	和志
安八郡神戸町	高橋	日出美
大垣市	吉田	てるみ

入選

御嶽の噴煙みたり秋気澄む
銀杏や茶碗蒸しにも一つ入れ
指先にちよこんととまる赤とんぼ
露天湯に招き入れたる今日の月
里山に案山子一体留守まもる
赤とんぼ夕日を浴びて朱を深む
千歳飴引きずり詣る男の子
秋燈下一句浮はすペンを置き
黄金色染める稲田の美しさ
日の丸で皇迎えし樹木祭

大垣市	久保田	悟義
大垣市	浅野	亨
大垣市	伊藤	琴美
不破郡垂井町	臼井	梅乃
大垣市	谷	彩虹
不破郡垂井町	久保田	紘義
不破郡垂井町	高木	しげ乃
不破郡垂井町	大羽	志津子
羽島市	竹中	千恵子
大垣市	田中	千代

選者吟

枯葉っぱ飛べる遠さよ風に乗る

庄一郎